

国際ロータリークラブ第2720地区
熊本第3グループロータリークラブ
「IM」インターシティーミーティング 報告

熊本第3グループガバナー補佐
松本孝一郎

熊本第3グループRC・インターシティーミーティングテーマ

「ロータリーを知ろう！ ロータリーを知って」

平成26年11月22日(土)熊本交通センターホテル3階大ホールにて熊本第3グループのインターシティーミーティングを山崎パストガバナー、本田パストガバナー、永田地区研修副委員長をお迎えし、54名の参加のもと開催いたしました。

今回の開催に当たり、開催案内にIMの参加対象者に義務出席者は・・・という表現があったため、その人達だけが参加をすれば良いのだろうという誤解を与えてしまったこと、再度出席者を確認するという流れになったことに対し反省すると共に、寛容のお心でご理解いただいたロータリー会員の皆様に深く感謝申し上げます。次期のガバナー補佐にIMは全員が参加対象者であることの記述のうえ、特に義務出席者は・・・という表現を使うようの方が良いということを引き継いでいきたいと思っています。

永田地区研修副委員長は、「ようこそ ロータリーへ」というロータリークラブの入会冊子の監修をされました。本田地区研修委員長と共にお忙しいなか、急な講演依頼にもかかわらず気持ちよくお引き受けいただいただけでなく、ロータリークラブの根本に関わる点を「ロータリーの歴史に学ぶ」という演題でパワーポイントを使いながらわかりやすくご説明頂きました。「日頃より聞いていたことで、意味が改めて確認できた」などとても良かったという感想をたくさん頂きました。より多くの会員の皆様に情報を共有するために、後のページに講演内容を掲載しております。是非参考にいただければと思います。

その後、8クラブからは「ロータリーに入会して」という題で、それぞれのクラブの方々が、入会するまでの誘われ方、入会前に卓話をしたら入会になっていました事や、異業種に接する素晴らしい時間を過ごすことの出来るRCクラブの良さを話されるなど、あっという間に時間が過ぎてしまいました。代表で発表をされた会員の皆様のお話には感銘する点が多々ありました。ご苦労様でした。

最後に、山崎パストガバナーよりIMの講評を頂き無事終了いたしました。

会場を移しての懇親会では、本田パストガバナーより始めの言葉を頂いた後、乾杯から終了時間まで話が途切れることもなく最後まで盛り上がっていました。

今回ホストクラブとしてご尽力頂きました熊本東ロータリークラブの永瀬会長を始め、山崎パストガバナー、本田パストガバナー、永田地区研修副委員長に改めて感謝申し上げます。ご報告とさせていただきます。有り難うございました。

あなたはいくつ知っていますか？

- *CLP DDF DG DLP IAC RAC
- *IM MD MOU MPHF PHF PDG
- *RC RI RLI RRFC RPIC RYLA
- *SAA TRF VTT WCS WF GE GN
- *PETS
- *The Four Test
- *Polio Plus
- *Fellowship
- *The Object of Rotary

ロータリーの歴史に学ぶ



This Rotarian Age
Paul.P.Harris (米山梅吉 訳)

THIS ROTARIAN AGE : ロータリーの理想と友愛 Paul.P.Harris著 米山梅吉 訳

- 1935年 国際ロータリーから出版
- 1936年 昭和11年 米山梅吉 翻訳上梓
- 1955年 昭和30年 文献委員会 柏原孫左衛門
- 1967年 昭和42年 ロータリーの友事務所
- 1978年 昭和53年 第4版 出版



シルベスター・シール (石炭商) ガスターパス・E・ロア (鉱山技師)
ハイラム・E・ショーレー (洋服商) ポール・P・ハリス (弁護士)

- No.5 ハリー・L・ラッグルズ (印刷業者)
クラブ例会に歌を唱和することを始めた。
クラブの合唱の理由
- 1) 友愛の宣揚となること
 - 2) 気分の放出となること
 - 3) 音楽への関心を促すこと
 - 4) 歌の選択が会合の目的に合えば、会員の話題を用意できる

ポール・ハリスはハリーについて次のように言っています。
「ハリーよ、願わくは君の友人との団欒を永久に享楽せよ」

*なぜこういう会合を持つに至ったか？

「地方から出てきた彼らは時折抑え難い寂寞感に襲われた・・・仲間を求め・・・」

*そして、定期的に集まるからには理由が必要

「会員は相互の職業生活を見聞しようとする趣旨から、そのいずれかの事務所において、会合を催すことにした。かくて、各人の事務所を循環的に会場にあてたことが、『ロータリー』(巡回)なる会名を採用するに至った主な理由であった。」

*会合が始まると自ずと暗黙のルールが出来上がる。

「主として、職業上の相互援助、すなわち「成功」に向かっての相互援助であるので互いに必要に応じて、力の及ぶ限り相談し後援しあった。ことに同じ職業の人が、二人いなかったということは、相互援助を一層円滑にしたものである。」
(一業種一人の原則と職業研究の実践(後の職業奉仕と思われる)の樹立)

*相互の友誼・親交・友好。

「共通の仕事に協力せよ。意見同じからざる問題はこれを避けて、あえて議論する勿れ。しからば、われらは友愛を持って報いられるであろう。」
当時クラブでは、友情の証として敬称を廃止し、宗教上、政治上の議論は禁止されていました。

ロータリークラブの設立時の思想

前にも述べた「共通の仕事に協力せよ。・・・」

*一業種一人の大前提 → Vocational Serviceへ繋がる。

「彼らの中には宗教上及び政治上の議論は友好を妨害する恐れありとして、これを禁じていた。」

(P.Harrisの祖先はアイルランド・スコットランド人。また、第一次のロータリアンの多くがユダヤ人であったため、キリスト教各宗が存在。)

「よく「知り合う」ということが、大切な中間過程であり、それは、迷える人の心を治し、無益な猜疑を解消して根ね友愛にまで成熟する。」

ロータリーの目的：奉仕の機会として知り合いをひろめること。

ロータリアンは友愛と寛容の精神を持って友情を育む仲間 (Fellowship)

* 友情を培い友愛の精神を鼓吹する → Club Service

ロータリークラブに最初から存在した、職業奉仕とクラブ奉仕

ロータリーの伸びゆく悩み

1905年 2月23日 4人でロータリークラブ発足
1910年 8月 シカゴで連合会 RC 16クラブ

Arthur Frederick Sheldon: 知恵の光に満たされた人間は、他人に利益をもたらすことこそが正しい処理法だということを理解し、経営学が人間に対するサービス学であることを理解し、同僚に対して最も奉仕した者が最も報われることを理解するのである。

He profits most who serves his fellows best.

1912年 8月 国際連合会へ(ウィネベグ RC ロンドンRC)
1922年 8月 ロサンゼルス国際連合会 国際ロータリー
1925年 7月 世界6大陸に2,000以上のクラブ108000人

ロータリーの模範に習って類似の目的を標榜する団体の出現。特に、キワニスクラブ、ライオンズクラブは会員数においてロータリーの次となった。ロータリーはこれらの団体の出現を悉く歓迎し、これに助力を与えることを持って喜ぶべき特権であると考えた。これら、姉妹団体の達成した著しい効果はロータリーの思想態度に対する十分な褒賞となっている。

エドガー・アレン (Edgar Allen)

1918年オハイオ州エリリアンRCに入会。
身体障害児救済のために全米身体障害児協会を設立。積極的に社会奉仕活動を実践。こういった、行動実践派とロータリー理論派との間に軋轢が生じた。
理論派; ロータリアンの心に「奉仕の心を形成」することがロータリーの本旨。
実践派; 「奉仕活動の実践」こそがロータリアンの使命。

(第一回目のロータリー崩壊の危機)

ポール・ハリス 曰く

「すべての考慮を職業奉仕に集中しようとする思想は、理論的帰結において一つの事態を想定するものであった。実業道徳の向上を唯一の目的とする世界的大同団結なるものは、単にそれ自体大きな価値を持つだけでなく、各国間の親善増進に寄与する価値は大きい。しかし、ロータリーは創立以来、その若干の目的の中に特にある優位を許すことはなかった。」

つまり・・・職業奉仕も社会奉仕もどちらも優位ということはない。そのクラブが持っている特性と許容範囲において両者に重きを置く必要がある。

* service (奉仕) とは、人のためになる行為全体を指す。(米山尚吉)

これらの、理論派 実践派 の軋轢を通して行われた1923年セントルイス大会で採択された「決議34号」があります。一般に「決議23-34」として有名ですが・・・。

ポール・ハリスは御この決議に対し「あらゆる分裂の危険性を解消した。」と安堵していたようです。

それでは、決議23-34の内容は、どのようなものでしょうか? 「個々のクラブにおいて事実上の完全な自治を認めるものでした。」 「他方において、一つの行動が、他の行動を無視すべきでないことを厳に戒告したものでした。」

今の、定款・細則を読み取る時に、国際ロータリーの定款・細則に沿ったクラブ運営をすれば、極めて自由なクラブとしての活動が保証されています。また、偏ったクラブの活動は、これを禁止しています。

ポール・P・ハリスを助けて、ロータリーの基礎を確立した3賢人
1. Arthur Frederick Sheldon (1868-1935)



アーサー・フレデリック・シェルドン

「最もよく奉仕する者、最も多く報いられる」

1908年のある夕方、ミネアポリスの理髪店の椅子から、その組んでいた長脚を解いて飄然と戸外に現れたシェルドンの頭脳は、まさにこの言葉を思想として確信していた。

「He profits most who serves his fellows best.」

シェルドンのこの言葉について多くの誤解を打ち消す必要があった。「シェルドンはサーヴィスに報われる精神上の利益を無視するのではなく、衷心に深くこれを意識しつつも、ただ人間社会の自然的通習である求利の観念を最高限のサーヴィスの理想と調和せしめることをもって、自己の特殊使命と考えた。」

2010年規定審議会で

「One profits most who serves best.」

2. Chesley. R. Perry (1872-1960)



ポール・ハリスは彼のことを「ロータリーのただ一人の国内的国際的幹事である。」と評した。
the Rotarian の生みの親。
初代事務総長。

そして、国際ロータリーの生みの親。

ポール曰く: 「チェスはただに公正の人であるのみならず、始終変わらない境容の人であると確信し、また断言する。長い間このような人物の協力に恵まれてきたことは、真に光栄とすべきである。最も、深い友誼は表面に現出すること少なくしてしかも強く底流を流す。」



彼はロータリーの理想を解明して
“Thoughtfulness of and helpfulness to others”
(他人を思い、助けること)と言った。
これは、世界万人にて適用する道徳律である。

3. Franklin. B. Collins



私たちはこういった会員間の交際の心を大切にしています。話を終える前に、クラブで起こった最も喜ばしい一つの例を話しておきたいと思えます。会員になって半年に満たない人が、例案で立ち上がって言いました。「皆さん、私は、この街にある、交際を基盤とする秘密組織に入っています。私はこの組織に何年もの間所属しています。そして、この組織に何年もいたが故、辛直にあなた方に言えます。私があなたの方のクラブの会員になった半年の間に、私がかつて来た人よりも、ずっと多くの人と心を通わせることができました。私は、妻に言いました、『もし私の身に何かが起こり、相談や援助やそのほかのことが必要ならば、ミネアポリス・ロータリークラブに行きなさい。』と。」
私たちのクラブを象徴する言葉こそ “Service, not self” です。

* コリンズはミネアポリスRCの初代会長で、この時は即興演説だったようです。この“Service, not self”は当初日本では「奉仕第一、自己第二」と呼ばれていました。その後、「無我(私)の奉仕」に変わり、そして1950年に「Service above self」となり、邦訳も「超我の奉仕」となりました。

そして、ロータリーの2つのスローガンが決まりました。それは、シェルドンの「最もよく奉仕するもの、最もよく報いられる」と、コリンズの「超我の奉仕」です。

国際ロータリーの第一標語

SERVICE above SELF (超我の奉仕)

国際ロータリーの第二標語

One Profits Most Who Serves Best.

(最もよく奉仕する者、最も多く報いられる)

ロータリー財団の標語

Doing Good in the World

(世界で良いことをしよう)

ロータリーアクトの標語

Fellowship Through Service

(奉仕を通じての親睦)

Service (奉仕) とは: 仕えまつること (広辞林)

忠恕 (ちゅうじょ) と同義語

忠: 内なる真心に背かないこと

恕: 真心による他人への思いやり

う〜ん、難しい!!

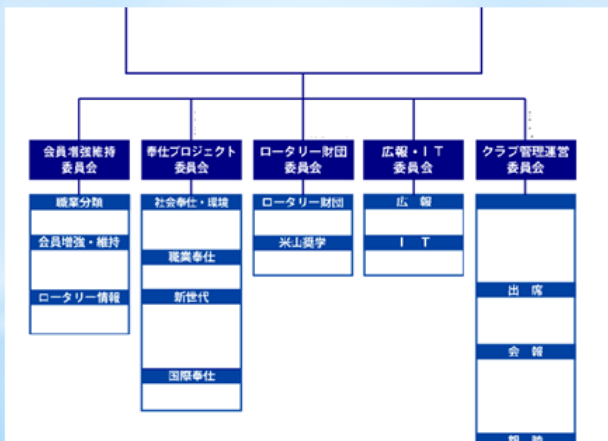
米山梅吉は、このサービスについて次のように述べています。

Service = 「人のためになる行為全体」

私たちが言うロータリークラブでの「奉仕」とは、誰かに仕えることではなく、人のためになる行為をすること。

クラブ奉仕は、クラブ会員との相互の信頼関係を築くための行為。

職業奉仕は、自分の仕事を通して会社・従業員・クライアントのためになる行為。



a) あなたは今まで誰かに、「ロータリーとは一体何ですか」と尋ねられたことがありますか?

その時、あなたはどのように答えましたか?

職業倫理を重んずる実業人・専門職業人の集まり

b) ロータリーの目的はどこに書かれているのでしょうか?

国際ロータリー 定款 第4条

ロータリークラブ定款 第4条

c) ロータリーの目的は何でしょうか?

意義ある事業の基礎として「奉仕の理念」を奨励し、これを育むことである。

d) 五大奉仕とは何でしょうか?

クラブ奉仕 職業奉仕 社会奉仕 国際奉仕 青少年奉仕

IM(Intercity Meeting) 都市連合会

別の都市にあるクラブとクラブが、嫉妬や競争から解放され、高尚な文化的意識と真摯な協同精神に替わった時、この意識を都市から都市へ伝播させるのがロータリーの効果であり、この効果は、ロータリークラブ都市連合会(Intercity Meeting)で各都市間の関係に実現された。(サンフランシスコとロサンゼルス)

*近隣都市数クラブが集まって親睦・情報教育その他の目的で行われているロータリーの会合の総称。

*近隣クラブが共通のテーマで語り合い、知己の輪を広げる意義は大きく、殆どのIMはフォーラムと懇親会がセットになっている形式がとられている。

*1998年手続要覧では、標準クラブ定款の出席既定を除き、IMに関する記載が削除されてしまったが、IMを開催するか否か、誰が主催するかについては、従来通り、全てガバナーの自由裁量権の下にあると解釈すべきである。

*当地区は、グループごとに行われ、AG主催で全会員が出席対象者

およそロータリー会員は、身分の高低と貧富の別なく、人種にかかわらず宗教家たるを問わず政治家たるを論ぜず、寛大、忍耐、正義、親切、友誼、親愛をこのわれわれの知る最善の小世界の住人に支給している人々に、好意を伝える使節として終始するものである。

ポール・P・ハリス (1935年)



